

# 投手を見る捕手と打者を見る捕手の相違

明星大学 情報学部 情報学科 佐藤研究室  
19J5-048 金子晴希

## 概要

近年の捕手併用によって捕手による打者に対する配球に相違があると推測する。本研究では、読売ジャイアンツの小林選手と大城選手を対象として、打者それぞれに対する配球の相違を分析する。鈴木選手、ソト選手に対して小林選手は打者の苦手なコースや球種だけでなく投手の調子も考慮した配球を行っていると考えられる。大城選手は打者の苦手なコースや球種を重視して配球を行っていると考えられる。以上の結果から、小林選手は投手を見る捕手であり、大城選手は打者を見る捕手であることが考えられる。

## 1 はじめに

近年のプロ野球では捕手を固定せず、併用されるケースが非常に多くなってきている。そこで、捕手併用によって配球の組み立て方に相違があると推測し分析を行う。

本研究では、データスタジアム株式会社様より提供された 2020 年度及び 2021 年度の投球捕手構え位置座標データと球種名データを使用し、捕手の構えた位置や球種から配球にどのような傾向があるのかを分析する。本研究で扱う捕手は読売ジャイアンツ所属の小林誠司選手 (以後：小林選手)、大城卓三選手 (以後：大城選手) とし、投手も読売ジャイアンツ所属の菅野智之投手 (以後：菅野投手) として分析を行う。

## 2 鈴木誠也選手の個別データ

鈴木誠也選手 (以後：鈴木選手) は広島東洋カープ所属の選手である。鈴木選手の 2020 年から 2021 年の打撃成績から OPS を基に、ストライクゾーンを色分けしたものを図 1 に示す。アウトコース低めやインコースの真ん中から高めに対して攻めていくことが基本的には良いと考えられる。

表 1 は 2020 年から 2021 年における鈴木選手の球種別打撃成績を示す。鈴木選手は速球系であるストレート、シュートに対して打率、OPS ともに高い成績を残している。スライダーやフォークといった変化が大きい球種は打率が低い傾向にあることから、その球種を駆使して配球を組み立てることが有効であると考えられる。

図 2 に小林選手、大城選手の球種選択を示す。小林選手はストレートとスライダー、カットボールを軸に配球をしている。大城選手はストレートとスライダーで 80 % を超える配球であり、かなり特徴的である。表 2 は菅野投手に限定した場合の球種別打撃成績を示す。スライダーの OPS が全投手からの値と比べて約 1 割程度下がっている。スライダーの OPS が他の球種に比べて低い傾向にあることから、大城選手はスライダーを軸として配球を組み立て

ていると判断できる。

図 3 として大城選手と小林選手の両捕手がミットを構えた位置座標を示す。どちらの捕手もアウトコースに変化球を集めているが、大城選手はインコースには速球系を集めていることから内外のコースを使って配球を組み立てている。小林選手は多少甘いコースにも構えることからデータ通りではないことが分かる。表 3 は捕手別の広島戦での菅野投手の投手成績を示す。表 3 より捕手が小林選手の時の菅野投手の調子が良くないことが推測される。投手の調子を見て配球を組み立てた結果、甘いコースに構えるしかなかったと考えられる。小林選手はボールになるよりもストライクゾーン内で勝負しようという意味を示していると推測される。2020 年から 2021 年において、捕手が小林選手時の鈴木選手の打撃成績は 4 打数 2 安打 (2 本塁打) となっており、大城選手時は 17 打数 5 安打 (2 本塁打) と大城選手の配球が鈴木選手を抑えている。



(a) ストライクゾーン (b) OPS 基準

図 1: 鈴木選手に対してのコース別打撃成績

表 1: 鈴木選手の球種別打撃成績

球種	HR	打率	OPS
ストレート	31	0.324	1.104
スライダー	10	0.262	0.924
カットボール	4	0.323	0.924
シュート	4	0.353	1.215
フォーク	4	0.183	0.650
カーブ	2	0.484	1.353

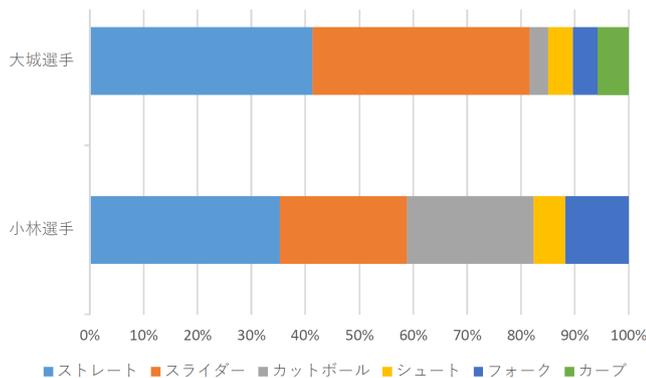
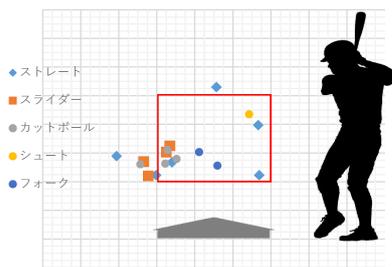
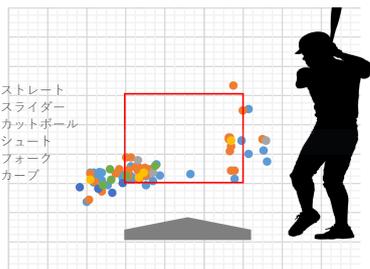


図 2: 鈴木選手に対する球種選択



(a) 小林選手



(b) 大城選手

図 3: 鈴木選手に対しての捕手構え位置

表 2: 菅野投手に限定した球種別打撃成績

球種	HR	打率	OPS
ストレート	2	0.455	1.500
スライダー	2	0.167	0.833

表 3: 広島戦の対戦成績 (菅野投手)

捕手	試合	勝ち	負け	QS	投球回	防御率
小林選手	2	1	0	1	9	5.00
大城選手	6	3	2	4	40	2.93

### 3 まとめ

本研究では鈴木選手だけでなく、東京ヤクルトスワローズの村上選手、阪神タイガースの近本選手、横浜 DeNA ベイスターズのソト選手に対しても分析を行った。村上選手と近本選手の分析結果では、小林選手と大城選手の構えた位置や球種選択に相違があるとは言えない結果となった。ソト選手は、鈴木選手同様に捕手によって構えた位置と球種選択に相違がある結果となった。

4 人の選手に対する配球の相違分析から、小林選手は打者のデータだけでなく投手の調子も考慮して配球を組み立てていると推測できる。特に菅野投手は、鈴木選手が所属している広島戦、ソト選手が所属している横浜 DeNA 戦での成績がいいとは言えない。菅野投手の調子が悪くストライクがあまり入らない状況ではきわどい所に構えるよりも、まずはストライクゾーンで勝負といった小林選手からの意思表示が表れていると推測する。大城選手は打者のデータを重視して配球を行っている。4 人の選手に対して、打者が苦手な球種やコースを攻めている。

ただ、打者のデータ重視の配球は、苦手なコースや球種を要求する単調な配球となることもある。大城選手は 2020 年から 2021 年で出場機会が増えているが、チームが優勝するまでには至っていない。一ファンとしての意見ではあるが、その日の投手の調子を見るなど大城選手のオリジナリティある配球の組み立てに今後期待していきたい。また、それがチームの勝利に結び付くことを望んでいる。

### 4 謝辞

「情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター」様及び「データスタジアム株式会社」様のご支援に深く感謝申し上げます。

### 参考文献

- [1] プロ野球を統計学と客観分析で考える. デルタ・ベースボール・レポート 1. 水曜社
- [2] キャッチャーのリードの重要性！. リードのセオリーとは？. <https://yakyu-jotatsu.com/2018/11/14/%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%BC-%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%89-%E9%87%8D%E8%A6%81%E6%80%A7-%E3%82%BB%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%BC/>, (参照 2021-11-10)
- [3] 捕手の構えは投球にどのような影響を与えるのか～導入編～. <https://1point02.jp/op/gnav/column/bs/column.aspx?cid=53857>, (参照 2021-10-17)